

生涯学習・社会教育関係職員研修講座(市町村を会場地とした研修)

令和8年7月22日(水)13:30～15:30 弘前市役所岩木庁舎 受講者28名

1 内容

【テーマ】「ゆるやかなつながりからはじめる地域づくりの実践」
～社会教育が育む、人と地域の新しい関係性～

【講 師】いちのせき市民活動センター センター長 おの でら ひろき 小野寺 浩樹 氏

【経 歴】

いちのせき市民活動センターのセンター長として、一関市の市民活動支援、コミュニティ支援に携わり、行政と住民の協働推進、住民主体の地域課題解決ができる地域づくり推進を行っている。東日本大震災にあたっては、いわて連携復興センターを立ち上げ、陸前高田市にて、復興期における住民主体の地域づくり活動の推進を目的として、陸前高田まちづくり協働センターを立ち上げ、理事として運営に従事している。



【講義要旨】

- 地域とは、人々が暮らし、学び、働き、支えあう生活の場であり、地域づくりは、暮らす人々が安心して安全に楽しく暮らせる状態をつくることです。地域づくりが難しいのは、正解が一つではないからです。
- 地域の変化には人口減少の影響があるものの、地域への関わり方の変化や地域課題の多様化も大きな要因です。
- 地域の担い手不足の解消には、関わり方の選択肢を増やすことが大切です。従来の所属による継続的で責任ある関わりから、無理なく自分らしく、必要な時に地域とつながる柔軟な関係へと変わること、ゆるやかなつながりが生まれます。
- 今後は「参加する／しない」の二択ではなく、「知る→興味を持つ→応援する→たまに参加→継続的に参加→中心に関わる」という段階的な参加のグラデーションを意識することが求められます。
- 地域活動への参加の選択肢を広げ、ゆるやかなつながりで次の担い手候補を増やすことが重要です。人が育つ場を地域全体でつくっていきましょう。

2 受講者の感想

- ・地域づくりは正解が一つではないため、とても難しいこと、様々な意見がある中で、時間をかけて合意形成することが必要であることを学びました。
- ・地域課題の解決方法として、従来と見方を変えた事例を知ることができ、大変参考になりました。可能なものは取り入れたいと思います。
- ・無理強いをすると離れる若い世代の方が多く、参加のグラデーションを考えて心の広さをもつことが大事だと感じました。
- ・「つながる」という言葉の広さと深さについて、改めて考え直すことができました。つながり方にも多様な形態があることも分かりました。